

[平成15年度普及に移す技術名]

[普及に移す技術名] 小ギク栽培における肥効調節型肥料の基肥条施肥による減肥栽培

[要約] 7、8月咲き小ギク露地栽培において、肥効調節型肥料を株下20cmの深さに条施肥することにより、慣行の窒素成分で10アール当たり30.2kgに対して25～50%の減肥を行っても高品質の切り花生産が可能である。

[キーワード] 小ギク、肥効調節型肥料、条施肥、減肥栽培

[担当] 福井園試・花き研究グループ

[連絡先] 電話 0770-32-0009 電子メール engei@fklab.fukui.fukui.jp

[分類] 参考

[背景・ねらい]

7、8月咲き小ギク露地栽培では、他の作物に比べて比較的多肥栽培が行われているのが現状である。そこで、肥効調節型肥料を条施肥し、施肥量の減少を図りつつ、高品質の切り花生産が可能な低コストで環境にやさしい栽培技術を確立する。

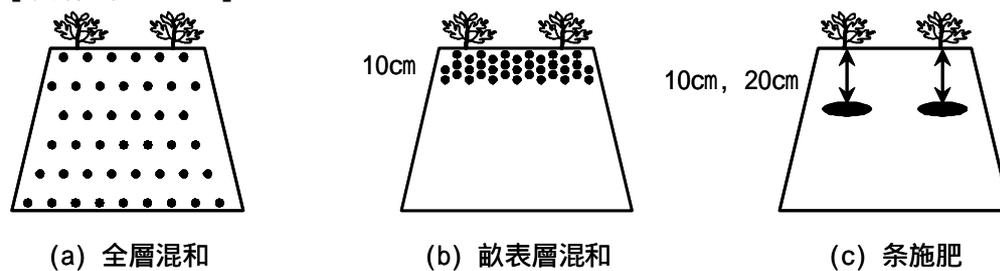
[技術の内容・特徴]

1. 施肥方法は、切り花品質が慣行の全層混和施肥と同等であったキク株下20cmへの条施肥がよい(表1、図1)。
2. 10アール当たり窒素施肥量10.1kgでは、どの施肥方法を行っても調整重が減少するなど切り花品質が慣行施肥より低下するため、窒素施肥量は、切り花品質が慣行施肥と同程度の10アール当たり15kg程度を下限とする(表1)。
3. キク株下20cmへの条施肥による削減可能な窒素施肥量は、50%であり、切り花品質の年次間差は認められない(表2)。
4. 以上の結果から、7、8月咲き小ギク露地栽培において、肥効調節型肥料を株下20cmの深さに条施肥することにより、慣行施肥量に対して25～50%の減肥が可能である。

[技術の活用面・留意点]

1. 供試品種は、「夕霧」であるが、7、8月咲き小ギク品種「舞人」においても、慣行の窒素成分で10アール当たり30.2kgに対して25～50%の減肥が可能である。
2. ロングは、スーパーロング70日タイプとロング100日タイプを1:2の割合で混合したものを施用する。
3. ロングは、熱崩壊性の肥効調節型肥料であるため、畝立て後、黒マルチで被覆する。

[具体的データ]



(a) 全層混和

(b) 畝表層混和

(c) 条施肥

図1 施肥方法

表1 施肥方法および窒素施肥量の違いが切り花品質に及ぼす影響 (2000年度)

施肥方法	窒素施肥量 (kg/10a)	開花日 ^z	切り花長 (cm)	調整重 ^y (g)	葉数 (節)	茎径 ^x (mm)	花房径 (cm)
慣行施肥	30.2	7/29	70.9	39.4	38.4	5.4	5.6
畝表層混和	15.1	7/25 b	66.2 a	35.4	36.7	5.2	5.7
	10.1	7/28	65.9 a	30.2 b	34.0 a	5.1	4.9
10cm条施肥	15.1	7/26	69.6	35.7	36.0	5.3	5.6
	10.1	7/25	66.0 a	30.4 b	33.4 b	5.0 a	5.0
20cm条施肥	15.1	7/27	68.1	41.3	36.1	5.8	6.3
	10.1	7/26	70.1	34.0 a	36.5	5.1	5.4

z ; 3輪開花した日, y ; 下葉を20cm取り除いた値, x ; 上位から20節の茎径,
a ; 慣行施肥に対して5%で有意差あり, b ; 慣行施肥に対して1%で有意差あり.

*定植日は2000年4月19日、摘心日は5月1日.

*栽植方法は、畝幅120cm、条間40cm×株間10cmの2条植えとし、3本仕立て.

*肥効調節型肥料は、ロング424の100日タイプを施用.

*慣行施肥区はふくの花、ようりんおよび粒状草木カリを全層混和.

表2 条施肥における窒素施肥量の違いが切り花品質に及ぼす影響

年度	施肥方法	窒素施肥量 (kg/10a)	開花日 ^z	切り花長 (cm)	調整重 ^y (g)	葉数 (節)	茎径 ^x (mm)	花房径 (cm)
2001	慣行施肥	30.2	8/1	82.1	69.0	38.0	5.7	ND
	20cm条施肥	30.2	7/31	83.2	72.0	38.3	5.8	ND
		22.7	8/7	88.0	78.9	39.7	5.8	ND
		15.1	7/28	80.5	67.0	37.5	5.9	ND
2002	慣行施肥	30.2	7/14	92.4	79.4	42.0	5.8	16.2
	20cm条施肥	30.2	7/14	95.2	85.6	42.2	5.9	15.3
		22.7	7/14	91.4	74.8	40.1	5.5	14.0
		15.1	7/12	90.0	79.1	40.9	5.7	13.3

z ; 3輪開花した日, y ; 下葉を20cm取り除いた値, x ; 上位から20節の茎径, ND ; データなし.

*2001年は4月19日に定植し、5月1日に摘心、2002年は、4月17日に定植し、5月1日に摘心.

*栽植方法は、畝幅120cm、条間40cm×株間10cmの2条植えとし、3本仕立て.

*肥効調節型肥料は、スーパーロング424の70日およびロング424の100日タイプを1:2の割合で混合したものを施用.

*慣行施肥区はふくの花、ようりんおよび粒状草木カリを全層混和.

[その他]